

第6章 総合原価計算

練習問題 6-1

月末仕掛品原価の計算 1 (平均法、先入先出法)

Check! **1st Stage!**

次の〔資料〕に基づいて各問に答えなさい。

〔資料〕

1. 生産量データ

月初仕掛品量	500 個	(0.8)
当月投入量	<u>4,300 個</u>	
合計	4,800 個	
月末仕掛品量	<u>600 個</u>	(0.5)
当月完成品量	<u>4,200 個</u>	

(注) 直接材料は工程の始点で投入している。

仕掛品量の () 内の数値は、加工進捗度を表している。

2. 原価データ

月初仕掛品原価	
直接材料費	176,000 円
加工費	182,000 円
当月製造費用	
直接材料費	1,720,000 円
加工費	2,050,000 円

問1 平均法による場合、①月末仕掛品原価及び②完成品総合原価を求めなさい。

問2 先入先出法による場合、①月末仕掛品原価及び②完成品総合原価を求めなさい。

答案用紙

問1

① (円) ② (円)

問2

① (円) ② (円)

練習問題 6-2

月末仕掛品原価の計算 2 (純粋先入先出法、修正先入先出法)

Check! 1st Stage!

当社は、単一工程において製品を連続大量生産しており、原価計算方式として単純総合原価計算を採用している。次の〔資料〕に基づいて、以下の設問に答えなさい。なお、端数が生じる場合は小数点以下第3位を四捨五入しなさい。

〔資料〕

1. 生産量データ

月初仕掛品	450個 (0.5)
当月投入	<u>1,350</u>
合計	1,800個
月末仕掛品	<u>300 (0.6)</u>
完成品	<u>1,500個</u>

(注) 材料は工程の始点ですべて投入されている。

また、() 内の数値は加工進捗度を示している。

2. 原価データ

	月初仕掛品原価	当月製造費用	合計
直接材料費	45,000円	135,000円	180,000円
加工費	26,400円	116,400円	142,800円

問1 原価配分法として修正先入先出法を採用した場合の、①当月完成品原価、②当月完成品単位原価及び③月末仕掛品原価を計算しなさい。

問2 原価配分法として純粋先入先出法を採用した場合の、①当月完成品原価、②当月完成品単位原価及び③月末仕掛品原価を計算しなさい。なお、月初仕掛品完成分と当月着手完成分に分けて答えること。

答案用紙

問1

- ① () 円 ② () 円/個
③ () 円

問2

・ 月初仕掛品完成分

- ① () 円 ② () 円/個

・ 当月着手完成分

- ① () 円 ② () 円/個
③ () 円

練習問題 6-3

月末仕掛品原価の計算 3 (例外的方法)

Check! 1st Stage!

次の〔資料〕に基づいて各問に答えなさい。

〔資料〕

1. 生産量データ

月初仕掛品量	500 個	(0.8)
当月投入量	4,300 個	
合計	4,800 個	
月末仕掛品量	600 個	(0.5)
当月完成品量	4,200 個	

(注) 直接材料は工程の始点で投入している。

仕掛品量の () 内の数値は、加工進捗度を表している。

2. 原価データ

月初仕掛品原価

各問の指示に従うこと

当月製造費用

直接材料費 1,720,000 円

加工費 2,050,000 円

問1 月末仕掛品を直接材料費のみをもって計算する方法による場合、①月末仕掛品原価及び②完成品総合原価を求めなさい。なお、月初仕掛品原価は176,000円(直接材料費のみ)である。また、月末仕掛品の評価方法は先入先出法による。

問2 月末仕掛品を予定原価をもって評価する方法による場合、①月末仕掛品原価及び②完成品総合原価を求めなさい。なお、月末仕掛品の予定原価は1個当たり700円であり、月初仕掛品原価は350,000円である。

問3 月末仕掛品を無視する方法による場合、①月末仕掛品原価及び②完成品総合原価を求めなさい。なお、月初仕掛品原価は358,000円である。

答案用紙

問1

① (円) ② (円)

問2

① (円) ② (円)

問3

① (円) ② (円)

練習問題 6-4

材料の追加投入 1

Check! **1st Stage!**

当社は、製品αを量産している。工程始点でA材料、工程50%地点にてB材料、工程を通じて平均的にC材料、工程の終点でD材料を投入している。ただし、材料を追加投入しても製品生産量は増加しない。

次に示す〔資料〕に基づいて、①月末仕掛品原価、②完成品総合原価、③完成品単位原価を算定しなさい。

〔資料〕

1. 生産データ (単位：個)

月初仕掛品	500 (30%)
当月投入	1,400
合計	1,900
月末仕掛品	300 (70%)
完成品	1,600

2. 原価データ (単位：円)

	A材料費	B材料費	C材料費	D材料費	加工費
月初仕掛品原価	24,000	0	1,600	0	4,600
当月製造費用	71,400	30,400	19,920	25,750	51,460
合計	95,400	30,400	21,520	25,750	56,060

3. その他

- ・ ()内は、仕掛品の加工進捗度を示す。
- ・ 月末仕掛品原価は、先入先出法によって計算する。

答案用紙

- ① (円)
- ② (円)
- ③ (円/個)

練習問題 6-5

材料の追加投入 2

Check! **1st Stage!**

当社は、X原料を工程の始点で投入して加工しているが、その他融合剤としてのY原料を工程の中間点（加工進捗度 50%点）まで平均的に散布している。Y原料はX原料に吸収されてしまうので、X原料の投入状況に基づいた換算データをもって原価計算を実施している。

次の〔資料〕により、月末仕掛品原価及び完成品原価を計算しなさい。

〔資料〕

1. 当月の生産データ

月初仕掛品量	42 kg (50%)
当月投入量	566 kg
月末仕掛品量	54 kg (25%)
当月完成品量	554 kg

（注）仕掛品量の（ ）内の数値は、加工進捗度を表している。

2. 当月の原価データ

	<u>月初仕掛品</u>	<u>当月製造費用</u>
X原料費	22,491 円	303,375 円
Y原料費	7,811 円	100,254 円
加工費	4,745 円	126,538 円

3. 仕掛品の計算には平均法を採用している。

4. 端数が生じる場合には小数点以下第1位を四捨五入しなさい。

答案用紙

	<u>月末仕掛品原価</u>	<u>完成品原価</u>
X原料費	円	円
Y原料費	円	円
加工費	円	円
合計	<u>円</u>	<u>円</u>

練習問題 6-6

材料の追加投入 3

Check! **1st Stage!**

当社は、製品を量産している。始点でA材料が投入され、加工進捗度 60%の地点におけるA材料通過量と同量のB材料が同地点において追加投入される。B材料の追加投入により製品生産量は増加する。

そこで、次に示す〔資料〕に基づいて、完成品原価及び月末仕掛品原価を算定しなさい。但し、加工換算量は、A材料を基にして算定する。

〔資料〕

1. 生産データ (単位: kg)

月初仕掛品	30 (0.2)
当月投入	<u>620</u>
合計	650
月末仕掛品	<u>50 (0.8)</u>
完成品	<u>600</u>

2. 原価データ (単位: 円)

	A材料	B材料	加工費
月初仕掛品原価	26,100	0	4,400
当月製造費用	<u>265,500</u>	<u>124,800</u>	<u>251,200</u>
合計	<u>291,600</u>	<u>124,800</u>	<u>255,600</u>

3. その他

- ・ ()内は、仕掛品の加工進捗度を示す。
- ・ 月末仕掛品原価は、先入先出法によって計算する。

答案用紙

完成品原価 (円)

月末仕掛品原価 (円)

練習問題 6-7

材料の追加投入 4

Check! **2nd Stage!**

当工場は、代替性のない2種類の原料(甲原料と乙原料)を用いて単一製品を量産している。甲原料は工程の始点で一括して投入され、加工進捗度50%地点でその地点における甲原料の15%に相当する量の乙原料が追加的に投入される。

以下の〔資料〕に基づいて、当月の月末仕掛品原価及び完成品総合原価を算定しなさい。

〔資料〕

1. 当月生産報告

月初仕掛品	500 kg (0.4)
当月投入	2,375 kg
合計	2,875 kg
月末仕掛品	345 kg (0.6)
完成品	2,530 kg

(注) 括弧内は加工進捗度を示す。

2. 当月原価報告

	月初仕掛品	当月製造費用
甲原料費	228,500 円	884,000 円
乙原料費	—	277,500 円
加工費	146,740 円	1,002,800 円

問1 先入先出法により計算した場合

問2 平均法により計算した場合

答案用紙

問1

月末仕掛品原価	<input type="text"/>	円	完成品総合原価	<input type="text"/>	円
---------	----------------------	---	---------	----------------------	---

問2

月末仕掛品原価	<input type="text"/>	円	完成品総合原価	<input type="text"/>	円
---------	----------------------	---	---------	----------------------	---

答案用紙

問1

- | | | | |
|---------|----|-----|----|
| (1) ① (| 円) | ② (| 円) |
| (2) ① (| 円) | ② (| 円) |
| (3) ① (| 円) | ② (| 円) |
| (4) ① (| 円) | ② (| 円) |

問2

- | | | | |
|---------|----|-----|----|
| (1) ① (| 円) | ② (| 円) |
| (2) ① (| 円) | ② (| 円) |
| (3) ① (| 円) | ② (| 円) |
| (4) ① (| 円) | ② (| 円) |

答案用紙

問1

- | | | | |
|---------|----|-----|----|
| (1) ① (| 円) | ② (| 円) |
| (2) ① (| 円) | ② (| 円) |
| (3) ① (| 円) | ② (| 円) |
| (4) ① (| 円) | ② (| 円) |

問2

- | | | | |
|---------|----|-----|----|
| (1) ① (| 円) | ② (| 円) |
| (2) ① (| 円) | ② (| 円) |
| (3) ① (| 円) | ② (| 円) |
| (4) ① (| 円) | ② (| 円) |

練習問題 6-11

仕損・減損 4 (度外視法・評価額あり)

Check!

1st Stage!

当工場は単一製品を量産している。以下の〔資料〕に基づいて各問に答えなさい。

〔資料〕

1. 当月生産及び原価報告

月初仕掛品	150個 (0.6)	月初仕掛品原価	
当月投入	<u>860個</u>	直接材料費	172,600円
合計	1,010個	加工費	105,700円
仕損品	50個 (0.4)	当月製造費用	
月末仕掛品	<u>160個 (0.5)</u>	直接材料費	928,800円
完成品	<u><u>800個</u></u>	加工費	929,600円

2. その他

- (1) 生産報告の括弧内の数値は加工進捗度を示している。
- (2) 材料は工程の始点で一括して投入される。
- (3) 原価配分法には先入先出法を適用する。
- (4) 仕損品は加工進捗度で示した一定点で生じ、全て正常なものと判断された。
- (5) 仕損品に係わる費用の処理は、進捗度を考慮した度外視法による。
- (6) 仕損品の売却価値は214円/個と見積もられる。このうち108円/個は材料の価値に依存し、106円/個は加工の結果に依存している。

問1 月末仕掛品原価と完成品総合原価を算定しなさい。

問2 仮に仕損品が加工進捗度0.8の地点で生じたものとする。この場合の月末仕掛品原価と完成品総合原価を算定しなさい。

答案用紙

問1

月末仕掛品原価 円 完成品総合原価 円

問2

月末仕掛品原価 円 完成品総合原価 円

練習問題 6-12

仕損・減損 5 (度外視法・評価額あり)

Check!

1st Stage!

当社は、単純総合原価計算を採用している。次の〔資料〕に基づき、各間について、完成品原価及び月末仕掛品原価を計算しなさい。

〔資料〕

1. 生産量データ

	<u>生産量</u>
月初仕掛品	420個 (0.5)
当月投入	<u>1,680</u>
合計	2,100個
月末仕掛品	350 (0.4)
正常仕損品	<u>140</u>
完成品	<u>1,610個</u>

- (1) 直接材料は工程の始点で投入される。
- (2) カッコ内は仕掛品の加工費進捗度を示す。
- (3) 正常仕損品の評価額は45,080円である。
- (4) 正常仕損度外視の方法による。
- (5) 月末仕掛品の評価方法は平均法を採用している。

2. 原価データ

	直接材料費	加工費
月初仕掛品	268,800円	143,640円
当月投入	1,083,600円	943,110円
合計	1,352,400円	1,086,750円

問1 完成品と月末仕掛品の両方に、正常仕損費を負担させる場合。なお、仕損品の価値は、主として材料価値に依存するものとする。

問2 完成品のみ、正常仕損費を負担させる場合。なお、正常仕損品の発生点は工程終点であり、その価値の内訳は、材料価値分60%、加工による価値分40%であるとする。

問3 本問を平均法によらず、先入先出法によった場合。

<計算条件>

- (1) 正常仕損は工程の始点から終点まで平均的に生じたものとする。
- (2) 正常仕損はすべて当月作業分より生じたものとする。
- (3) 評価額は主として材料の価値によって生じたものとする。
- (4) 端数が生じた場合は円未満を四捨五入する。

練習問題 6-13

仕損・減損 6 (非度外視法・評価額あり)

Check!

1st Stage!

製品を量産する当社の今月の生産データおよび原価データは、次のとおりであった。先入先出法により、各間について、月末仕掛品原価及び完成品総合原価を算定しなさい。

〔資料〕

1. 生産データ (単位: 個)

月初仕掛品	20	(50%)
当月投入	<u>100</u>	
合計	120	
仕損品	10	(40%)
月末仕掛品	<u>40</u>	(50%)
完成品	<u><u>70</u></u>	

(*1) 原料はすべて工程始点で投入された。

(*2) ()内は加工費の進捗度を示す。

2. 原価データ

	原料費	加工費	合計
月初仕掛品原価	108,000円	65,000円	173,000円
当月製造費用	558,000円	604,800円	1,162,800円

3. その他

(1) 仕損品は工程の40%の地点で発生したものであり、非度外視法により処理する。

(2) 仕損品には1個当たり1,800円の評価額があり、主として原料の価値に依存する。

問1 月末仕掛品原価及び完成品総合原価を算定しなさい。

問2 仮に仕損品が工程の終点で生じたものとする。この場合における月末仕掛品原価及び完成品総合原価を算定しなさい。なお、仕損品はすべて当月投入分から発生しているとみなす。

答案用紙

問1

月末仕掛品原価: ()円

完成品総合原価: ()円

問2

月末仕掛品原価: ()円

完成品総合原価: ()円

練習問題 6-14

仕損・減損 7 (非度外視法・評価額あり)

Check!

1st Stage!

当社では、製品を量産している。〔資料〕を参考に、各問に答えなさい。

〔資料〕

1. 生産量データ

月初仕掛品	600個 (0.5)
当月投入	<u>1,400</u>
合計	2,000個
正常仕損品	200
月末仕掛品	<u>400 (0.5)</u>
完成品	<u>1,400個</u>

(注)・材料はすべて工程の始点で投入される。

・ () 内の数値は加工費進捗度を示す。

2. 原価データ

	直接材料費	加工費
月初仕掛品	50,000円	57,200円
当月投入	350,000円	402,000円
合計	400,000円	459,200円

3. その他

- (1) 正常仕損は、非度外視法により計算し、その負担関係は発生点の進捗度により決定する。
- (2) 完成品および月末仕掛品への原価配分は先入先出法による。
- (3) 仕損品には1個あたり10円の評価額がある。
- (4) 計算上生じた円未満の端数は四捨五入すること。

問1 正常仕損が工程の終点で発生した場合における月末仕掛品原価、完成品総合原価を計算しなさい。なお、正常仕損はすべて当月投入分より生じたものとする。

問2 正常仕損が工程の進捗度20%で発生した場合における月末仕掛品原価、完成品総合原価を計算しなさい。

答案用紙

問1

月末仕掛品原価 () 円 [うち正常仕損費] 円
 完成品原価 () 円 [うち正常仕損費] 円

問2

月末仕掛品原価 () 円 [うち正常仕損費] 円
 完成品原価 () 円 [うち正常仕損費] 円

練習問題 6-15

仕損・減損 8 (安定発生)

Check! **2nd Stage!**

次の〔資料〕を参考にして、問1 非度外視法による場合の完成品総合原価及び月末仕掛品原価、問2 度外視法による場合の完成品総合原価及び月末仕掛品原価を求めなさい。

〔資料〕

1. 生産データ (単位: kg)

月初仕掛品	0
当月投入	<u>1,000</u>
合計	1,000
正常減損	90
月末仕掛品	<u>190</u> (0.5)
完成品	<u><u>720</u></u>

(注) () 内の数値は加工進捗度を示す。

2. 原価データ

原材料費	100,000円
加工費	68,600円

- 正常減損は工程を通じて安定的に発生しており、工程の終点では原材料投入量の10%が減損している。
- 原材料は工程の始点ですべて投入している。
- 月初仕掛品は存在しないものとする。
- 計算上生じた端数については円未満を四捨五入すること。

答案用紙

問1

完成品総合原価 円月末仕掛品原価 円

問2

完成品総合原価 円月末仕掛品原価 円

練習問題 6-16

仕損・減損 9 (安定発生)

Check!

2nd Stage!

当工場は単一製品を量産している。以下の〔資料〕に基づいて各問に答えなさい。

〔資料〕

1. 生産データ

月初仕掛品	460 kg (40%)
当月原料投入量	3,850 kg
月末仕掛品	540 kg (50%)
当月完成品	3,000 kg

(注1) 原料はすべて工程始点で投入しており、工程を通じて20%の一定率で失われる。

(注2) () 内の数値は、加工進捗度を示す。

(注3) 月末仕掛品の評価は先入先出法による。

2. 原価データ

	原料費	加工費
月初仕掛品原価	362,000 円	329,600 円
当月製造費用	2,779,700 円	6,675,900 円

問1 度外視法によった場合の完成品総合原価及び月末仕掛品原価を求めなさい。

問2 非度外視法によった場合の完成品総合原価及び月末仕掛品原価を求めなさい。

答案用紙

問1

完成品総合原価		円
---------	--	---

月末仕掛品原価		円
---------	--	---

問2

完成品総合原価		円
---------	--	---

月末仕掛品原価		円
---------	--	---

答案用紙

問1

A 原料量 kgB 原料量 kg

問2

A原料当月投入量 kgB原料当月投入量 kg

問3

月初仕掛完成分 kg当月投入完成分 kg当月投入仕掛分 kg

問4

月末仕掛品原価 円完成品原価 円

練習問題 6-18

仕損・減損 11 (仕損・減損同時発生)

Check!

2nd Stage!

当工場は単一製品を量産している。以下の〔資料〕に基づいて各問に答えなさい。

〔資料〕

1. 当月生産及び原価報告

月初仕掛品	600 kg (0.5)	月初仕掛品原価	
当月投入	<u>3,800 kg</u>	原料費	262,000 円
合計	4,400 kg	加工費	87,000 円
正常減損	300 kg	当月製造費用	
正常仕損品	400 kg	原料費	1,596,000 円
月末仕掛品	<u>500 kg (0.4)</u>	加工費	1,022,000 円
完成品	<u>3,200 kg</u>		

2. その他

- (1) 生産報告の括弧内の数値は加工進捗度を示している。
- (2) 原料は工程の始点で一括して投入される。
- (3) 原価配分法には先入先出法を適用する。
- (4) 当工場では、全ての減損及び仕損は当月投入分から発生したものとみなして計算している。
- (5) 減損は工程を通じて平均的に発生する。
- (6) 減損費の処理は、まず減損費を算定し、次いで当月において減損を発生させたと判断される完成品、月末仕掛品、仕損品の原価に算入する方法(非度外視法)による。
- (7) 仕損品は工程の終点で検出されるため、原価計算上は加工進捗度 100%とみなす。
- (8) 仕損費の処理は非度外視法による。また、仕損品の売却価値は 62,400 円と見積もられる。

問1 正常減損費と正常仕損費を算定しなさい。

問2 月末仕掛品原価と完成品総合原価を算定しなさい。

答案用紙

問1

正常減損費

 円

正常仕損費

 円

問2

月末仕掛品原価

 円

完成品総合原価

 円

練習問題 6-19

仕損・減損 12 (材料の追加投入)

Check! **2nd Stage!**

当工場は単一製品を量産している。以下の〔資料〕に基づいて、当月の月末仕掛品原価及び完成品総合原価を算定しなさい。

〔資料〕

1. 当月生産及び原価報告

月初仕掛品	500個 (0.2)	月初仕掛品原価	451,000円
当月投入	<u>2,800個</u>	当月製造費用	
合計	3,300個	A原料費	1,750,000円
正常仕損品	300個 (0.5)	B原料費	717,500円
月末仕掛品	<u>600個 (0.7)</u>	C原料費	1,056,000円
完成品	<u><u>2,400個</u></u>	D原料費	555,000円
		E原料費	1,035,000円
		加工費	2,066,400円

2. 原料の投入状況等

- (1) A原料は、工程の始点で一括して投入される。
- (2) B原料は、工程の加工の進捗に応じて平均的に投入される。
- (3) C原料は、加工進捗度0.3地点において一括して投入される。
- (4) D原料は、加工進捗度0.6地点において一括して投入される。
- (5) E原料は、加工進捗度0.3地点から0.8地点まで平均的に投入される。
- (6) 追加的な原料は全てA原料に吸収される。したがって、原料の追加投入により、製品単位は増量しない。

3. その他

- (1) 生産報告の括弧内の数値は加工進捗度を示している。
- (2) 月末仕掛品の評価は先入先出法による。
- (3) 正常仕損品は、当月投入分から加工進捗度で示した一定点で生じたものとする。
- (4) 正常仕損費の処理は、非度外視法により、発生原因と考えられる物品に合理的に負担させる。なお、仕損品の売却価値は総額で145,400円と見積もられる。

答案用紙

月末仕掛品原価

円

完成品総合原価

円

練習問題 6-20

異常仕損・減損 1

Check! 1st Stage!

製品を量産する当社の今月の生産データおよび原価データは、次のとおりであった。以下の〔資料〕に基づき、①月末仕掛品原価、②完成品総合原価、③異常仕損費を求めなさい。

〔資料〕

1. 生産データ (個)

月初仕掛品	0
当月投入	<u>1,500</u>
合計	1,500
月末仕掛品	400 (0.5)
異常仕損	<u>100</u>
完成品	<u><u>1,000</u></u>

(*1) 原料はすべて工程の始点で投入された。

(*2) 仕掛品の()内は加工費の進捗度を示す。

2. 原価データ

	<u>原料費</u>	<u>加工費</u>	<u>合計</u>
当月製造費用	42,000円	29,760円	71,760円

3. その他

異常仕損は、工程の40%の地点で発生したものであり、その処分総額は1,120円である。なお、この価値は主として材料価値に依存する。

答案用紙

- ① 月末仕掛品原価 (円)
 ② 完成品総合原価 (円)
 ③ 異常仕損費 (円)

答案用紙

問1

<ケース1>

完成品総合原価 円異常仕損費 円月末仕掛品原価 円

<ケース2>

完成品総合原価 円異常仕損費 円月末仕掛品原価 円

問2

<ケース1>

完成品総合原価 円異常仕損費 円月末仕掛品原価 円

<ケース2>

完成品総合原価 円異常仕損費 円月末仕掛品原価 円

練習問題 6-22

異常仕損・減損 3

Check! 1st Stage!

当社は製品を生産しており、単純総合原価計算を採用している。次の〔資料〕に基づき製品の完成品総合原価を計算し、正しい番号を一つ選びなさい。

〔資料〕

1. 生産データ

月初仕掛品量	50kg (40%)
当月投入量	<u>150kg</u>
投入量合計	<u>200kg</u>
当月完成品量	130kg
当月正常減損量	10kg (工程を通じ平均的に発生)
当月異常減損量	20kg (25%)
月末仕掛品量	<u>40kg (50%)</u>
産出量合計	<u>200kg</u>

2. 原価データ

月初仕掛品原価	
原料費	14,700円
加工費	<u>3,900円</u>
合計	<u>18,600円</u>
当月製造費用	
原料費	45,300円
加工費	<u>28,100円</u>
合計	<u>73,400円</u>

3. その他

- (1) 原価配分は平均法による。
- (2) 原料は工程の始点で投入する。
- (3) 減損費の計算は非度外視法による。
- (4) 正常減損費は異常減損費にも負担させる。
- (5) () 内の数値は加工進捗度を示す。
- (6) 計算上の端数の処理は、仕掛品原価、減損費及び完成品総合原価については円未満を四捨五入する。

1. 67,736円 2. 67,891円 3. 68,161円 4. 68,355円 5. 68,467円

答案用紙

練習問題 6-23

異常仕損・減損 4

Check! **2nd Stage!**

製品を量産し、実際単純総合原価計算を採用する当工場の当月のデータは、次の〔資料〕のとおりである。

〔資料〕

1. 生産量データ (単位: 個)

月初仕掛品		20,000 (3/5)
当月投入		81,000
投入合計		<u>101,000</u>
差引: 異常仕損	1,000 (1/5)	
正常仕損	400 (1/2)	
月末仕掛品	<u>21,600 (2/5)</u>	
小計	<u>23,000</u>	<u>23,000</u>
完成品		<u>78,000</u>

主材料は、工程の始点で投入する。上記()内は、加工費の進捗度を示す。正常仕損は、製造技術の制約から工程の1/2の点で発生し、それ以外では発生しない。

2. 原価データ (単位: 円)

月初仕掛品原価	直接材料費	1,114,000
	加工費	<u>504,000</u>
	計	<u>1,618,000</u>
当月製造費用	直接材料費	4,536,000
	加工費	<u>3,301,760</u>
	計	<u>7,837,760</u>
投入合計		<u>9,455,760</u>

3. 正常仕損品には、1個当たり3円の処分価格があるが、異常仕損品には処分価格はない。

以上のデータに基づき、正常仕損費と異常仕損費をそれぞれ分離して計算し、次いで正常仕損費を関係する良品に負担させる方法及び先入先出法によって、(a) 月末仕掛品原価、(b) 正常仕損費、(c) 異常仕損費、(d) 完成品総合原価を計算しなさい。

答案用紙

(a) 月末仕掛品原価 = () 円

(b) 正常仕損費 = () 円

(c) 異常仕損費 = () 円

(d) 完成品総合原価 = () 円

答案用紙

問1

① 異常仕損費 円

月末仕掛品原価 円

完成品総合原価 円

② 異常仕損費 円

月末仕掛品原価 円

完成品総合原価 円

問2

① 異常仕損費 円

月末仕掛品原価 円

完成品総合原価 円

② 異常仕損費 円

月末仕掛品原価 円

完成品総合原価 円

問3

異常仕損費 円

月末仕掛品原価 円

完成品総合原価 円

練習問題 6-26

工程別総合原価計算 2 (累加法)

Check! 1st Stage!

次の〔資料〕に基づいて、工程別総合原価計算を行い、第1工程の月末仕掛品原価及び工程完成品総合原価、第2工程の月末仕掛品原価、完成品総合原価を計算しなさい。

〔資料〕

1. 生産データ (単位:個)

	第1工程	第2工程
月初仕掛品	80 (0.5)	60 (0.4)
当月投入	160	200
合計	240	260
月末仕掛品	40 (0.5)	80 (0.8)
完成品	200	180

2. 原価データ (単位:円)

	第1工程	第2工程
月初仕掛品原価		
原料費(前工程費)	160,000	204,000
加工費	52,000	37,200
当月製造費用		
原料費	336,000	—
加工費	243,000	286,000

3. その他

- ・ 原料は第1工程の始点で投入される。
- ・ ()内は加工進捗度を示す。
- ・ 月末仕掛品原価の計算は先入先出法による。

答案用紙

第1工程

月末仕掛品原価 (円) 完成品総合原価 (円)

第2工程

月末仕掛品原価 (円) 完成品総合原価 (, 円)

答案用紙

問1

- ① 第1工程月末仕掛品原価 (円)
- ② 第1工程完成品総合原価 (円)
- ③ 第2工程月末仕掛品原価 (円)
- ④ 第2工程完成品総合原価 (円)

問2

- ① 振替差異 (円)
- ② 第2工程月末仕掛品原価 (円)
- ③ 第2工程完成品総合原価 (円)

答案用紙

問1

第1工程月末仕掛品原価	円
完成品総合原価	円

問2

月末棚卸高	円
第2工程振替高	円
売上原価	円

問3

第2工程月末仕掛品原価	円
完成品総合原価	円

答案用紙

問1

	第1工程	第2工程
(1)	円	円
(2)	円	円

問2

	第1工程費	第2工程費
(1)	円	円
(2)	円	

問3

	第1工程費	第2工程費
(1)	円	円
(2)	円	

練習問題 6-31

組別総合原価計算 1

Check! 1st Stage!

組別総合原価計算を採用している当社の当期における次の〔資料〕に基づき、各問に答えなさい。

〔資料〕

1. 生産データ (単位: 個)

	甲製品	乙製品
期首仕掛品	—	—
当期投入分	660	800
合計	660	800
期末仕掛品	160	200
当期完成品	500	600

(注) 原材料は工程の始点ですべて投入される。また、期末仕掛品の加工進捗度はすべて40%である。

2. 原価データ

(1) 製品別の発生額 (単位: 円)

	甲製品	乙製品	合計
直接材料費	372,240	640,000	1,012,240
直接労務費	318,096	544,000	862,096
組間接費	各自計算	各自計算	1,293,144
	?	?	3,167,480

(2) 組間接費は、直接労務費を基準として各製品に配賦する。

問1 組間接費の各製品に対する配賦額を計算しなさい。

問2 甲製品の完成品総合原価と期末仕掛品原価を計算しなさい。

問3 乙製品の完成品総合原価と期末仕掛品原価を計算しなさい。

答案用紙

問1

甲製品への配賦額 (円)

乙製品への配賦額 (円)

問2

甲製品完成品総合原価 (円) 期末仕掛品原価 (円)

問3

乙製品完成品総合原価 (円) 期末仕掛品原価 (円)

練習問題 6-32

組別総合原価計算 2

Check! 1st Stage!

当社は、異種製品である製品Aと製品Bを組別に連続生産していることから、組別総合原価計算を採用しており、当月の〔原価計算に関する資料〕は次のとおりであった。

製品A及び製品Bの当月完成品原価を算定し、正しい組み合わせを一つ選びなさい。

なお、計算過程において端数が生じる場合には、円未満を四捨五入する。

〔原価計算に関する資料〕

1. 製品別生産データ

	製品A	製品B
月初仕掛品(加工進捗度)	2,000 kg (30%)	1,000 kg (80%)
当月投入直接材料	8,000 kg	7,200 kg
月末仕掛品(加工進捗度)	2,500 kg (60%)	1,200 kg (50%)
当月完成品	7,500 kg	7,000 kg

2. 製造費用関連データ

	製品A	製品B
(1) 直接材料費		
月初仕掛品	900,000 円	480,000 円
当月製造費用	3,000,000 円	2,800,000 円
(2) 加工費		
月初仕掛品	540,000 円	390,000 円
直接作業時間	4,500 時間	3,600 時間

3. 原価の算定に関する事項

- (1) 直接材料は全て始点で投入している。
- (2) 月末仕掛品の評価法は平均法によっている。
- (3) 直接労務費の1時間あたり単価は600円である。
- (4) 製造間接費の配賦は直接作業時間を基準として予定配賦を行う。なお、当年度の予定直接作業時間は80,000時間、製造間接費予算額は32,000,000円である。
- (5) 加工費は加工進捗度に基づいて原価を配分する。

	製品A	製品B
1.	7,125,000 円	6,475,000 円
2.	10,425,000 円	10,300,000 円
3.	7,050,000 円	6,650,000 円
4.	7,050,000 円	6,475,000 円
5.	7,125,000 円	7,330,000 円

<平成15年度短答式本試験問題>

答案用紙

答案用紙

問1

	X	Y
第1工程加工費	円	円
第2工程加工費	円	円

問2

完成品総合原価	円
月末仕掛品原価	円

練習問題 6-34

個別原価計算から組別総合原価計算へ

Check! 2nd Stage!

当社では、異種製品である製品A・製品Bを単一工程において生産しており、個別原価計算を実施してきた。しかし、生産量の増加が見込まれるため、来月から組別総合原価計算に変更することになり、当月において試験的に実施することにした。次の〔資料〕に基づいて、(1)製品A・(2)製品Bの、①月末仕掛品原価、②完成品総合原価及び③完成品単位原価を求めなさい。

〔資料〕

1. 製造指図書別原価データ (単位：円)

	No. 10	No. 10-1	No. 11	No. 20	No. 20-1
月初仕掛品原価	4,512,800	—	—	3,687,100	—
当月製造費用					
直接材料費	—	—	1,200,000	1,138,600	115,400
直接労務費	170,200	53,600	1,021,200	1,114,700	97,300
製造間接費	215,100	71,600	1,290,300	1,300,600	113,400
合計	4,898,100	125,200	3,511,500	7,241,000	326,100

(注1) No. 10の月初仕掛品原価の内訳

直接材料費 1,606,000 直接労務費 1,281,400 製造間接費 1,625,400

(注2) No. 20の月初仕掛品原価の内訳

直接材料費 1,136,000 直接労務費 1,173,700 製造間接費 1,377,400

2. 製造指図書別生産データ

(1) No. 10は前月に発行された製品A2,000個の製造指図書である。前月に2,000個の製造に着手し1,600個が完成したが、前月末において400個(加工進捗度0.3)が仕掛中であった。

また、当月に加工進捗度0.5の地点で100個が仕損となり、その補修のために補修指図書No. 10-1が発行され、すべて完成した。

(2) No. 11は当月に発行された製品A2,500個の製造指図書である。当月に1,500個の製造に着手し1,200個が完成したが、当月末において300個(加工進捗度0.6)が仕掛中である。

(3) No. 20は前月に発行された製品B4,000個の製造指図書である。前月に2,000個の製造に着手し1,700個が完成したが、前月末において300個(加工進捗度0.8)が仕掛中であった。

当月に残り2,000個の製造に着手し1,750個が完成したが、当月末において350個(加工進捗度0.6)が仕掛中である。また当月に、加工進捗度0.7の地点で200個が仕損となり、その代品製作のために代品製造指図書No. 20-1が発行され、代品のうち150個は完成したが、当月末において50個(加工進捗度0.2)が仕掛中である。なお、仕損品には処分価値が260円/個認められる。

3. 直接材料は工程の始点で投入している。

4. 仕損品はすべて正常とみなされている。なお、正常仕損費の負担関係は加工進捗度によって決定し、その処理については特別に費目を設けることをしない方法(度外視法)を採用している。

5. 計算にあたっては、前月においても組別総合原価計算を実施していたものとする。

6. 月末仕掛品の評価は先入先出法による。

答案用紙

	① 月末仕掛品原価	② 完成品総合原価	③ 完成品単位原価
(1) 製品A	円	円	円/個
(2) 製品B	円	円	円/個

練習問題 6-35

等級別総合原価計算 1 (完成品原価按分法) *Check!* **1st Stage!**

当社の各等級製品について、完成品単位原価を計算しなさい。ただし、月初仕掛品はない。また、当月製造費用は2,600,000円であり、すべて加工費とする(原料費は省略)。なお原価の按分方法は、最終完成品総合原価を等価係数に基づいて按分する方法を使用する。

等級製品	甲	乙	丙	合計
等価係数	1.0	0.8	0.6	
完成品量	1,000個	1,500個	500個	3,000個
月末仕掛品量	—	—	—	500個
月末仕掛品進捗度	—	—	—	50%

答案用紙

等級製品甲 () 円/個

等級製品乙 () 円/個

等級製品丙 () 円/個

練習問題 6-36

等級別総合原価計算 2 (完成品原価按分法)

Check!

1st Stage!

当社は同種製品A、B、Cを量産しており、等級別総合原価計算により各等級製品の原価を計算している。以下の〔資料〕に基づいて、各等級製品の完成品総合原価・単位原価及び月末仕掛品原価を計算しなさい。

〔資料〕

1. 当月生産および原価報告

月初仕掛品	1,500 kg (0.6)	月初仕掛品原価	
当月投入	9,000 kg	原料費	465,000 円
合計	10,500 kg	加工費	210,400 円
月末仕掛品	2,000 kg (0.3)	当月製造費用	
正常減損	1,000 kg	原料費	2,592,000 円
完成品	7,500 kg	加工費	1,663,200 円

内訳 A : 2,500 kg

B : 3,000 kg

C : 2,000 kg

2. その他

- (1) 生産報告の括弧内の数値は加工進捗度を示している。
- (2) 原料は工程の始点で一括して投入される。
- (3) 月末仕掛品の評価法は先入先出法による。
- (4) 減損は工程を通じて平均的に発生した。減損費の処理は、非度外視法による。なお、減損は全て当月投入分から生じたと仮定して計算する。
- (5) 等級別完成品原価を算定するための等価係数は、製品の品質を基準として次のように設定されている。

等級品A : 等級品B : 等級品C = 1.0 : 0.8 : 0.75

答案用紙

	等級品A	等級品B	等級品C
完成品総合原価	円	円	円
完成品単位原価	円/kg	円/kg	円/kg
月末仕掛品原価	円		

練習問題 6-37

等級別総合原価計算 3 (総合原価按分法)

Check!

1st Stage!

当工場では、等級製品CとDを生産し、実際等級別総合原価計算を採用している。当月の生産データと原価データは次の〔資料〕のとおりである。各等級製品の月末仕掛品原価、完成品総合原価及び完成品単位原価を計算しなさい。

〔資料〕

1. 生産データ (単位：個)

	C	D
月初仕掛品	400 (70%)	250 (80%)
当月投入	2,450	2,050
投入合計	<u>2,850</u>	<u>2,300</u>
月末仕掛品	350 (40%)	300 (50%)
完成品	<u>2,500</u>	<u>2,000</u>
産出合計	<u>2,850</u>	<u>2,300</u>

(注) 原料は工程の始点で投入される。また、()内の数値は加工進捗度を表す。

2. 等価係数

等級製品	C	D
原料費	1	0.8
加工費	1	0.6

3. 原価データ (単位：円)

等級製品	C	D	合計
月初仕掛品			
原料費	272,000	136,000	408,000
加工費	<u>217,000</u>	<u>93,000</u>	<u>310,000</u>
小計	<u>489,000</u>	<u>229,000</u>	<u>718,000</u>
当月製造費用			
原料費			2,875,000
加工費			<u>2,834,000</u>
小計			<u>5,709,000</u>
投入額合計			<u>6,427,000</u>

4. その他の計算条件

- ① 当工場では、まず各等級製品の積数の合計によって、完成品総合原価及び月末仕掛品原価の合計を計算する。次に各等級製品の積数に基づき、完成品総合原価および月末仕掛品原価の合計を各等級製品に按分する。
- ② 月末仕掛品の評価方法は平均法による。

答案用紙

	C	D
月末仕掛品原価	円	円
完成品総合原価	円	円
完成品単位原価	円/個	円/個

練習問題 6-38

等級別総合原価計算 4 (総合原価按分法)

Check!

1st Stage!

当社では等級製品である製品Kおよび製品Lを単一工程において生産しており、原価計算の方法として等級別総合原価計算を実施している。次の〔資料〕に基づいて、各製品の月末仕掛品原価、完成品総合原価及び完成品単位原価を求めなさい。

〔資料〕

1. 生産データ

	製 品 K	製 品 L
月初仕掛品量	400個 (0.9)	250個 (0.8)
当月投入量	2,600個	2,250個
合 計	3,000個	2,500個
当月仕損品量	150個	200個
月末仕掛品量	350個 (0.4)	300個 (0.5)
当月完成品量	2,500個	2,000個

(注) 直接材料は工程の始点で投入している。

仕掛品量の () 内の数値は、加工進捗度を表している。

2. 原価データ

	製 品 K	製 品 L
月初仕掛品原価		
直接材料費	272,000円	136,000円
加工費	217,000円	93,000円
当月製造費用		
直接材料費	3,092,000円	
加工費	3,050,000円	

3. 等価係数データ

	製 品 K	製 品 L
直接材料費	1	0.8
加工費	1	0.6

- 仕損品はすべて正常とみなされており、各製品とも工程の終点で発生している。なお、仕損品に売却価値はない。
- 正常仕損費は完成品のみが負担し、その処理については非度外視法を採用している。
- 等級別総合原価計算の方法は、まず各等級製品の積数の合計によって、費目別の全体完成品総合原価及び月末仕掛品原価を計算する。次に、各等級製品(仕損品を含む)の積数に基づく等価比率によって、費目別の全体完成品総合原価及び月末仕掛品原価を各等級製品に按分する。
- 月末仕掛品の評価は平均法による。

答案用紙

	K	L
月末仕掛品原価	円	円
完成品総合原価	円	円
完成品単位原価	円/個	円/個

練習問題 6-39

等級別総合原価計算 5 (当月製造費用按分法) *Check!*

1st Stage!

当工場では、等級製品甲と乙を生産し、実際等級別総合原価計算を採用している。次の〔資料〕に基づき、各等級製品の月末仕掛品原価、完成品総合原価及び完成品単位原価を計算しなさい。

〔資料〕

1. 生産データ (単位：個)

	甲	乙
月初仕掛品	4,000 (1/4)	2,000 (3/4)
当月投入	36,000	28,000
投入合計	40,000	30,000
完成品	35,000	26,000
正常仕損	100	—
月末仕掛品	4,900 (1/2)	4,000 (1/5)
産出合計	40,000	30,000

(注) 原料は工程の始点で投入される。()内は加工進捗度を表す。正常仕損は工程の終点で発生し、処分価格はない。

2. 等価係数

等級製品	甲	乙
原料費	1	0.8
加工費	1	0.6

3. 原価データ (単位：円)

等級製品	甲	乙	合計
月初仕掛品			
原料費	249,500	98,400	347,900
加工費	43,000	51,600	94,600
小計	292,500	150,000	442,500
当月製造費用			
原料費			3,212,000
加工費			2,069,200
小計			5,281,200
投入額合計			5,723,700

4. その他の計算条件

- ① 当工場では、できるだけ正確に等級製品の製造原価を把握するために、等価係数は原料費と加工費とを区別して、当月製造原価を等級製品に按分する際に使用している。
- ② 完成品と月末仕掛品に対する原価の配分は、修正先入先出法による。
- ③ 正常仕損については、非度外視法による。

答案用紙

	甲	乙
月末仕掛品原価	円	円
完成品総合原価	円	円
完成品単位原価	円/個	円/個

練習問題 6-40

連産品 1

Check! 1st Stage!

当社は、単一工程において連産品甲、乙を生産している。次の〔資料〕に基づき、各問に答えなさい。

〔資料〕

1. 当月製造費用(単位：円)

直接材料費	28,000
加工費	12,000
	40,000 (連結原価)

2. 生産・販売・在庫量 (単位：kg)

	甲	乙
生産量	2,000	2,000
月末在庫量	—	200
販売量	2,000	1,800

(注) 連産品は、製造工程の終点で分離する。

3. 販売価格 (= 正常市価)

製品甲	15 円/kg	製品乙	10 円/kg
-----	---------	-----	---------

4. 小数点以下の端数が生じる場合には小数点以下第3位を四捨五入すること。

問1 連結原価を生産量基準で配賦した場合の、製品別損益計算書を作成しなさい。

問2 連結原価を正常市価基準で配賦した場合の、製品別損益計算書を作成しなさい。

答案用紙

(単位：円)

問1

	甲	乙	合計
売上高			
売上原価			
売上総利益			
売上総利益率	(%)	(%)	(%)

問2

	甲	乙	合計
売上高			
売上原価			
売上総利益			
売上総利益率	(%)	(%)	(%)

練習問題 6-41

連産品 2

Check! **1st Stage!**

当社の次の〔資料〕に基づいて、正常市価基準によって(1)各連産品への按分原価および(2)製造原価を計算しなさい。

〔資料〕

1. 連結原価 56,400 円
2. 生産量及び正常市価・正常分離後加工費

	生産量	正常市価	分離後加工費（見積）
甲	400 kg	@300 円	@20 円
乙	400 kg	@200 円	@10 円
	800 kg		
3. 実際分離後加工費

甲	5,800 円	乙	5,200 円
---	---------	---	---------
4. 月初・月末仕掛品はなく、製造量と販売量は一致している。

答案用紙

- (1) 按分原価 甲 (円) 乙 (円)
- (2) 製造原価 甲 (円) 乙 (円)

答案用紙

問1

(1) 各製品に対する連結原価の按分額

甲 (円)

乙 (円)

(2) 製品単位原価

甲 (円)

乙 (円)

(3) 製品種類別損益計算書 (単位：円)

	甲	乙	合計
売上高			
売上原価			
売上総利益			

(売上総利益率) (%) (%) (%)

(注) %表示で小数点以下の端数が生じる場合には、小数点以下第3位を四捨五入しなさい。(以下同様)

問2

(1) 各製品に対する連結原価の按分額

甲 (円)

乙 (円)

(2) 製品単位原価

甲 (円)

乙 (円)

(3) 製品種類別損益計算書 (単位：円)

	甲	乙	合計
売上高			
売上原価			
売上総利益			

(売上総利益率) (%) (%) (%)

練習問題 6-43

連産品 4

Check! 1st Stage!

当社では、同一の原料から中間製品 X1、Y1、Z1 を生産し、これら中間製品に加工を加え、最終製品 X2、Y2、Z2 として販売している。(イ) 等価係数を使用して計算した中間製品の単位当たり製造原価、(ロ) 最終製品の単位当たり製造原価を計算し、(イ)、(ロ) ともに正しい金額の組み合わせのものを一つ選びなさい。なお、計算過程で端数が生じた場合は、円位未満を四捨五入する。

[資料]

(1) 分離点における連結原価総額 9,912,000 円

(2) 中間製品の生産量及び等価係数

中間製品	生産量	等価係数
X1	6,000 <small>リットル</small>	0.8
Y1	8,000 <small>リットル</small>	1.0
Z1	7,000 <small>リットル</small>	0.7

(3) 分離後個別費

製品	個別加工費	個別販売費
X2	852,000 円	20,000 円
Y2	640,000 円	40,000 円
Z2	196,000 円	— 円

(4) 中間製品の最終製品への加工に当たって歩減りは発生しない。

1. (イ) 448 円 (ロ) 593 円
2. (イ) 448 円 (ロ) 645 円
3. (イ) 392 円 (ロ) 448 円
4. (イ) 560 円 (ロ) 593 円
5. (イ) 392 円 (ロ) 420 円

平成9年度短答式本試験問題

答案用紙

答案用紙

問1

(1) 正常市価に基づいて按分する方法

	クリーム	牛乳	合計
売上総利益	円	円	円
売上総利益率	%	%	%

(注) 売上総利益率は、四捨五入して%未満第1位まで求めること(以下の設問も同様とする)。

(2) 物量法(生産量を用いる方法)

	クリーム	牛乳	合計
売上総利益	円	円	円
売上総利益率	%	%	%

問2

・ 分離点における見積正味実現可能価額で按分する方法

	バタークリーム	練乳	合計
売上総利益	円	円	円
売上総利益率	%	%	%

問3

・ 修正NRV法に基づいて按分する方法

	バタークリーム	練乳	合計
売上高	()円	()円	()円
売上原価			
当期製造費用			
連結原価	()	()	()
個別費	()	()	()
計	()円	()円	()円
期末製品原価	()	()	()
差引	()	()	()
売上総利益	()円	()円	()円
売上総利益率	()%	()%	()%

答案用紙

問1

製 品	B	C	D	合 計
製品単価当たり製造原価	円	円	円	—
売 上 総 利 益	万円	万円	万円	万円

(注) マイナスの場合は、金額の前に△を付すこと。

問2

製 品	B	C	D	合 計
売 上 総 利 益	万円	万円	万円	万円

問3

製 品	B	C	D	合 計
売 上 総 利 益	万円	万円	万円	万円

問4

	工場全体の売上総利益
(1)	万円
(2)	万円
(3)	万円
(4)	万円

(注) マイナスの場合は、金額の前に△を付すこと。

練習問題 6-47

副産物・作業屑の処理

Check! 1st Stage!

製品を量産する当社の次の〔資料〕に基づき、①作業屑評価額、②副産物評価額、③月末仕掛品原価、④完成品総合原価及び⑤完成品単位原価を求めなさい。

〔資料〕

1. 生産データ (単位: kg)

月初仕掛品	0
当月投入	1,700
合計	1,700
月末仕掛品	400 (0.25)
作業屑	100
副産物	200
差引: 完成品	1,000

(*1) 原料は工程始点ですべて投入される。

(*2) 仕掛品の()の数値は仕掛品の加工進捗度を示す。

2. 原価データ (単位: 円)

	原料費	加工費	合計
当月製造費用	65,600	78,000	143,600

3. その他のデータ

- ① 作業屑は工程の20%の地点に設けられた検査点にて回収され、その処分価額は1kg当たり16円と見積もられた。なお、作業屑は当月作業分から生じたものであり、その価値は原料費から控除する。
- ② 副産物は工程終点で分離され、見積売却価額は1kg当たり24円である。

答案用紙

①	作業屑評価額	円
②	副産物評価額	円
③	月末仕掛品原価	円
④	完成品総合原価	円
⑤	完成品単位原価	円/kg

練習問題 6-48

総合原価計算 1

Check! **2nd Stage!**

当工場は、代替性のない2種類の原料（ α 原料と β 原料）を用いて単一製品を量産している。 α 原料は工程の始点で一括して投入され、 β 原料は工程の加工の進捗に応じて平均的に追加投入される。 β 原料の投入により、製品は最終的に始点量（ α 原料）から20%増量する。

以下の〔資料〕に基づいて、当月の月末仕掛品原価及び完成品総合原価を算定しなさい。

〔資料〕

1. 当月生産および原価報告

月初仕掛品	560 kg (0.6)	月初仕掛品原価	
当月投入	4,432 kg	α 原料費	381,400 円
合計	4,992 kg	β 原料費	39,500 円
月末仕掛品	432 kg (0.4)	加工費	235,300 円
正常仕損品	240 kg	当月製造費用	
副産物	120 kg	α 原料費	2,574,800 円
完成品	4,200 kg	β 原料費	436,300 円
		加工費	2,619,500 円

2. その他

- (1) 生産報告の括弧内の数値は加工進捗度を示している。
- (2) 月末仕掛品の評価は平均法による。
- (3) 正常仕損品は工程終点で検出される。
- (4) 正常仕損費は、度外視の方法により完成品と月末仕掛品に自動的に負担させる。
- (5) 副産物の処理は、正常仕損費の処理と関連させる。
- (6) 正常仕損品及び副産物は無価値と判断された。

答案用紙

月末仕掛品原価

円

完成品総合原価

円

答案用紙

- 問1 副産品の評価額 円
- 問2 甲中間製品原価 円
乙中間製品原価 円
- 問3 甲完成品総合原価 円
乙完成品総合原価 円
- 問4 甲製品売上総利益 円
乙製品売上総利益 円

練習問題 7-2

標準原価の計算 1

Check! **1st Stage!**

下記の〔資料〕に基づき、(1)当月の完成品製造原価、(2)材料が始点投入されている場合の月末仕掛品原価、(3)材料が工程を通じて平均的に投入されている場合の月末仕掛品原価を求めなさい。

〔資料〕

1. 生産データ (単位: 個)

月初仕掛品 5 (1/5)

当月投入 25

合計 30

月末仕掛品 4 (3/4)

完成品 26 ・括弧内の数値は加工進捗度を示す

2. 製品1個当たりの標準原価カード

費目	標準数量	標準価格	金額
標準直接材料費	5 kg	200 円	1,000 円
標準直接労務費	2 時間	700 円	1,400 円
標準製造間接費	2 時間	2,000 円	4,000 円
合計			6,400 円

答案用紙

(1) 当月完成品原価 円(2) 月末仕掛品原価 円(3) 月末仕掛品原価 円

練習問題 7-3

標準原価の計算 2

Check! **1st Stage!**

次の〔資料〕に基づいて、月初仕掛品原価、完成品原価及び月末仕掛品原価を計算しなさい。

〔資料〕

1. 標準原価カード（原価標準）

標準原価カード（1個当たり）					
	価格標準		物量標準		標準原価
直接材料費	@ 40 円	×	10kg	=	400 円
直接労務費	@100 円	×	2h	=	200 円
製造間接費	@200 円	×	2h	=	400 円
					1,000 円

2. 生産データ（単位：個）

月初仕掛品	20	(50%)
当月投入	120	
計	140	
月末仕掛品	40	(50%)
完成品	100	

（注1）直接材料は工程の始点で投入する。

（注2）カッコ内は加工進捗度を示す。

答案用紙

月初仕掛品原価 (円)

完成品原価 (円)

月末仕掛品原価 (円)

練習問題 7-4

標準原価差異分析 1

Check! **1st Stage!**

次の資料に基づいて、直接材料費差異を求めるとともに、その内訳としての価格差異、数量差異を求めなさい。

1. 標準原価カードの一部（製品一個当たり）

費 目	標準消費量	標準価格	金 額
直接材料費	2.5 kg	@800 円	2,000 円

2. 材料データ

当月消費 22,250 kg (@810 円)

3. 生産データ（単位：個）

当 月 投 入	9,000
完 成 品	9,000

注) 材料は工程の始点で投入される。

答案用紙

直接材料費差異 円 (差 異)
 内訳：価格差異 円 (差 異)
 数量差異 円 (差 異)

(注) () 内には借方または貸方と記入すること。

練習問題 7-5

標準原価差異分析 2

Check! **1st Stage!**

次の〔資料〕に基づいて、直接材料費差異を求めるとともに、その内訳としての価格差異、数量差異を求めなさい。

〔資料〕

1. 標準原価カードの一部（製品一個当たり）

費 目	標準消費量	標準価格	金 額
直接材料費	3 kg	@2,000 円	6,000 円

2. 材料データ

当月消費 27,250 kg (@2,100 円)

3. 生産データ（単位：個）

月初仕掛品	1,500 (3/5)
当月投入	9,000
合 計	10,500
月末仕掛品	2,000 (1/4)
完 成 品	8,500

注) 材料は工程の始点で投入される。

() 内は加工進捗度を示す。

答案用紙

直接材料費差異 円 (差 異)

内訳：価格差異 円 (差 異)

数量差異 円 (差 異)

(注) () 内には借方または貸方と記入すること。

練習問題 7-6

標準原価差異分析 3

Check! 1st Stage!

次の〔資料〕に基づいて、直接労務費差異を求めるとともに、その内訳としての賃率差異、時間差異を求めなさい。

〔資料〕

1. 標準原価カードの一部（製品一個当たり）

費 目	標準作業時間	標準賃率	金 額
直接労務費	2.5時間	@1,200円	3,000円

2. 賃金データ

当月消費 25,550時間 (@1,210円)

3. 生産データ（単位：個）

当 月 投 入	10,000
完 成 品	10,000

注) 材料は工程の始点で投入される。

答案用紙

直接労務費差異 円 (差 異)

内訳：賃率差異 円 (差 異)

時間差異 円 (差 異)

(注) () 内には借方または貸方と記入すること。

練習問題 7-7

標準原価差異分析 4

Check! **1st Stage!**

次の〔資料〕に基づき、直接労務費差異を求めるとともに、その内訳としての賃率差異、時間差異を求めなさい。

〔資料〕

1. 標準原価カードの一部（製品一個当たり）

費 目	標準作業時間	標準賃率	金 額
直接労務費	2.25 時間	@1,000 円	2,250 円

2. 直接賃金データ

当月実際直接作業時間 28,800 時間 実際賃率@1,005 円

3. 生産データ（単位：個）

月初仕掛品	2,000	(1/4)	
当月投入	12,000		
合計	14,000		
月末仕掛品	2,500	(3/5)	注) 材料は工程の始点で投入される。
完成品	11,500		() 内は加工進捗度を示す。

答案用紙

直接労務費差異 円 (差異)
 内訳：賃率差異 円 (差異)
 時間差異 円 (差異)

(注) () 内には借方または貸方と記入すること。

練習問題 7-8

標準原価差異分析 5

Check! 1st Stage!

HIT 製作所の第 1 製造部では部品 L を製造しているが、先日報告された 11 月の原価実績は次のとおりであった。11 月の実際生産量は 530 個であったので、部品 L 1 個当たり実際原価は約 12,791 円となる。

直接材料費	2,745,000 円	(=305 円/kg×9,000 kg)
直接労務費	2,184,000 円	(=1,680 円/時×1,300 時間)
製造間接費	1,850,000 円	
合計	6,779,000 円	

また、部品 L の標準原価カードは次のとおりであり、部品 L 1 個当たり標準原価は 11,000 円である。

	(標準単価)		(標準消費量)		
直接材料費	250 円/kg	×	20 kg	=	5,000 円
	(標準賃率)		(標準作業時間)		
直接労務費	1,400 円/時間	×	2 時間	=	2,800 円
	(標準配賦率)		(標準作業時間)		
製造間接費	1,600 円/時間	×	2 時間	=	3,200 円
部品 L 1 個当たりの標準製造原価					<u>11,000 円</u>

従って、11 月の実際原価は標準原価より約 16% 高かった。その説明を求められた第 1 製造部長は、次のように答えた。

「11 月は単価の高い資源を使ったということです。すなわち、直接材料は標準より 22%、直接工の賃率も 20% 高かったのです。そのような状況で製品原価が標準を 16% 超過しただけで済んだのは、資源の消費能率が良かったからで、それは第 1 製造部の努力の結果です。」

さて、第 1 製造部長の説明は必ずしも適切でない。それは、標準原価差異を計算し差異分析を行ってみれば明らかとなる。そこで、次の間に答えなさい。

- (1) 直接材料費差異を計算し、それを価格差異と数量差異とに分析しなさい。
- (2) 直接労務費差異を計算し、それを労働賃率差異と労働時間差異とに分析しなさい。

答案用紙

	総 差 異 =	円 ()
(1)	材料価格差異 =	円 ()
	材料数量差異 =	円 ()
	総 差 異 =	円 ()
(2)	労働賃率差異 =	円 ()
	労働時間差異 =	円 ()

(注) () 内には借方差異ならば借、貸方差異ならば貸を記入すること。

答案用紙

問1 製造間接費差異 円 (差異)

問2 二分法

管理可能差異 円 (差異)

操業度差異 円 (差異)

問3 三分法その1

予算差異 円 (差異)

能率差異 円 (差異)

操業度差異 円 (差異)

問4 三分法その2

予算差異 円 (差異)

能率差異 円 (差異)

操業度差異 円 (差異)

問5 四分法

予算差異 円 (差異)

変動費能率差異 円 (差異)

固定費能率差異 円 (差異)

操業度差異 円 (差異)

(注) () 内には借方または貸方と記入すること。

練習問題 7-11

標準原価差異分析 8

Check!

1st Stage!

製品Aの標準原価カードは次のとおりである。

	(標準単価)		(標準消費量)		
直接材料費	150 円/kg	×	20 kg	=	3,000 円
	(標準賃率)		(標準作業時間)		
直接労務費	1,200 円/時間	×	5 時間	=	6,000 円
	(標準配賦率)		(標準作業時間)		
製造間接費	1,000 円/時間	×	5 時間	=	5,000 円
	製品A1個当たりの標準製造原価				<u>14,000 円</u>

2. 当月の生産実績は次のとおりである。

月初仕掛品	150 個	(1/2)
当月投入	1,350 個	
合計	1,500 個	
月末仕掛品	300 個	(2/3)
完成品	1,200 個	

(注) () は加工進捗度を示す。

3. 製造間接費の当年度の予算は ¥ 80,400,000 (うち固定費 ¥ 48,240,000) であり、基準操業度は 80,400 時間である。また、当月の製造間接費実際発生額は ¥ 6,700,000 であり、実際作業時間は 6,630 時間である。

問

- 当月製造間接費配賦額を求めなさい。
- 製造間接費差異を 4 分法で分析し、予算差異、変動費能率差異、固定費能率差異、操業度差異の各金額を求めなさい。

答案用紙

(1) 当月の製造間接費配賦額 :		円
(2) 製造間接費差異の内訳 :	予 算 差 異	() 円
	変動費能率差異	() 円
	固定費能率差異	() 円
	操 業 度 差 異	() 円

(注) () 内には借方差異ならば借、貸方差異ならば貸を記入すること。

練習問題 7-12

標準原価差異分析 9

Check! 1st Stage!

次の〔資料〕に基づいて、各問に答えなさい。

〔資料〕

1. 標準原価カード（一部）

	標準直接作業時間	標準配賦率	金額
標準製造間接費	2時間	@850円	1,700円

2. 月間公式法変動予算

変動費率	@400円
固定費予算額	4,950,000円
基準操業度	11,000時間（直接作業時間）

3. 製造間接費実際発生額 9,000,000円

4. 当月実際直接作業時間 10,000時間

5. 生産データ（単位：個）

月初仕掛品	900	(50%)
当月投入	5,100	
計	6,000	
月末仕掛品	1,200	(75%)
完成品	4,800	

（注）仕掛品の（ ）内は加工進捗度を示す。また、材料は工程の始点で投入する。

問 製造間接費差異の分析を次の各方法によった場合の各差異の金額を求めなさい。なお、有利・不利を明示すること。また、答案用紙の空欄に適切な言葉を記入しなさい。

- (1) 四分法
- (2) 三分法(i) (能率差異を標準配賦率により計算する方法)
- (3) 三分法(ii) (能率差異を変動費率により計算する方法)
- (4) 二分法

答案用紙

	名称	金額	名称	金額
(1)	予算差異	円 (差異)	固定費能率差異	円 (差異)
	変動費能率差異	円 (差異)	操業度差異	円 (差異)
(2)	予算差異	円 (差異)	操業度差異	円 (差異)
	能率差異	円 (差異)		
(3)	予算差異	円 (差異)	操業度差異	円 (差異)
	能率差異	円 (差異)		
(4)	管理可能差異	円 (差異)	操業度差異	円 (差異)

練習問題 7-13 標準原価差異分析 10

Check! 2nd Stage!

次の〔資料〕に基づいて、各問に答えなさい。

〔資料〕

1. 変動予算のデータ (単位：円)

操 業 度	85%	90%	95%	100%	105%
製造間接費予算	3,172,000	3,399,940	3,512,800	3,600,000	3,729,680

2. その他の資料

基 準 操 業 度	60,000 時間
当 月 標 準 時 間	56,250 時間
当 月 実 際 時 間	57,630 時間
当 月 実 際 発 生 額	3,630,460 円

問1 実査法による差異分析を行いなさい。ただし、能率差異は、標準時間と実際時間の予算許容額の差額として算定すること。

問2 実査法による差異分析を行いなさい。ただし、能率差異は、標準時間と実際時間の予定配賦額の差として算定すること。

答案用紙

問1

- ① 予算差異 円 ()
- ② 能率差異 円 ()
- ③ 操業度差異 円 ()

問2

- ① 予算差異 円 ()
- ② 能率差異 円 ()
- ③ 操業度差異 円 ()

※ () 内には有利差異、不利差異を記入すること。

練習問題 7-14

標準原価差異分析 11

Check! 1st Stage!

次の〔資料〕に基づいて、標準原価差異分析を行いなさい。

〔資料〕

1. 標準原価カード（原価標準）

標準原価カード（1個当たり）				
	価格標準		物量標準	標準原価
直接材料費	@ 40 円	×	10kg	= 400 円
直接労務費	@100 円	×	2h	= 200 円
製造間接費	@200 円	×	2h	= 400 円
				1,000 円

2. 生産データ（単位：個）

月初仕掛品	20	(50%)
当月投入	120	
計	140	
月末仕掛品	40	(50%)
完成品	100	

（注1）直接材料は工程の始点で投入する。

（注2）カッコ内は加工進捗度を示す。

3. 当月実際製造費用

直接材料費	49,980 円	(@42 円×1,190kg)
直接労務費	21,600 円	(@96 円×225 時間)
製造間接費	48,200 円	(225 時間)

4. 当工場は製造間接費予算として公式法変動予算を採用している。基準操業度は月間 240 時間、月間の固定製造間接費予算額は 28,800 円であり、変動費率は@80 円である。製造間接費の差異分析は三分法（能率差異を変動費と固定費の両方から把握する方法）による。

答案用紙

直接材料費差異	円 (差異)	価格差異	円 (差異)
		数量差異	円 (差異)
直接労務費差異	円 (差異)	賃率差異	円 (差異)
		時間差異	円 (差異)
製造間接費差異	円 (差異)	予算差異	円 (差異)
		能率差異	円 (差異)
		操業度差異	円 (差異)

（注）括弧内には「有利」もしくは「不利」と記入すること。

答案用紙

① 実際原価計算（実際価格を使用）

完 成 品 原 価 () 円	月 末 仕 掛 品 原 価 () 円
------------------------------------	--

② 実際原価計算（予定価格を使用）

完 成 品 原 価 () 円	月 末 仕 掛 品 原 価 () 円
------------------------------------	--

価 格 差 異 () 円	賃 率 差 異 () 円
----------------------------------	----------------------------------

予 算 差 異 () 円	操 業 度 差 異 () 円
----------------------------------	------------------------------------

③ 標準原価計算

完 成 品 原 価 () 円	月 末 仕 掛 品 原 価 () 円
------------------------------------	--

価 格 差 異 () 円	数 量 差 異 () 円
----------------------------------	----------------------------------

賃 率 差 異 () 円	時 間 差 異 () 円
----------------------------------	----------------------------------

予 算 差 異 () 円	能 率 差 異 () 円
----------------------------------	----------------------------------

操 業 度 差 異 () 円	
------------------------------------	--

練習問題 7-16

勘定記入 1

Check! **1st Stage!**

次の〔資料〕に基づき、(1)シングルプランにより仕掛品勘定の記入を行うとともに、(2)製造間接費配賦差異を求めなさい。

〔資料〕

1. 製品K：1個当たりの標準原価

直接材料費	1 kg	×	@120 円	=	120 円
直接労務費	0.8 時間	×	@500 円	=	400 円
製造間接費	0.8 時間	×	@600 円	=	480 円
合 計					1,000 円

直接材料は、工程の始点で投入される。

2. 製造に関するデータ (単位：個)

月初仕掛品	500	(1/5)
当月投入	2,000	
合 計	2,500	
月末仕掛品	300	(1/2)
完 成 品	2,200	

() 内は加工進捗度を示す。

3. 実際原価に関するデータ

当月直接材料投入額	242,500 円
当月直接労務費消費額	903,100 円
製造間接費実際発生額	1,060,400 円

答案用紙

(1)

仕 掛 品		(単位：円)
前 月 繰 越 材 料 賃 金 製 造 間 接 費		製 品 次 月 繰 越

(2) _____ 円 (_____ 差異)

(注) () 内には借方または貸方を記入しなさい。

答案用紙

(単位：円)

(注) [] の中は差異の名称、() の中は金額を記入すること。

材 料	
実 際 消 費 額 ()	仕 掛 品 ()
[] ()	[] ()
<u>()</u>	<u>()</u>

賃 金	
実 際 消 費 額 ()	仕 掛 品 ()
/	[] ()
/	[] ()
<u>()</u>	<u>()</u>

製 造 間 接 費	
実 際 消 費 額 ()	仕 掛 品 ()
/	[] ()
/	[] ()
/	[] ()
/	[] ()
<u>()</u>	<u>()</u>

仕 掛 品	
月 初 有 高 ()	製 品 ()
材 料 ()	月 末 有 高 ()
賃 金 ()	/
製 造 間 接 費 ()	/
<u>()</u>	<u>()</u>

練習問題 7-18

勘定記入 3

Check! 1st Stage!

当社川崎工場は、L製品を連続的に生産しているが、前月に引き続き標準原価計算制度を採用している。以下の資料に基づき、答案用紙の仕掛品勘定・製品勘定を記入しなさい。なお、仕掛品勘定の借方には実際発生額を記入し、貸方には標準原価を記入する方法によること。

(1) L製品1個当たり原価の標準

直接材料費	20 kg	×	@500 円	=	10,000 円
直接労務費	5 時間	×	@1,000 円	=	5,000 円
製造間接費配賦額	5 時間	×	@1,600 円	=	8,000 円
					23,000 円

直接材料は工程の始点で投入する。

(2) 製造に関するデータ

- a 月初仕掛品 なし、月末仕掛品 40 個 (加工進捗度 1/2)
- b 当月製造開始数量 600 個、完成品数量 560 個

(3) 実際原価に関するデータ

- a 直接材料投入額 6,250,000 円
- b 直接賃金実際発生額 2,962,000 円
- 直接作業時間 (実際) 3,050 時間
- c 製造間接費実際発生額 4,748,000 円

(4) 製品月初在庫 20 個、月末在庫 35 個、月間販売数量 ? 個

答案用紙

仕 掛 品		(単位: 円)
材 料 ()	製 品 ()	
賃 金 ()	月 末 有 高 ()	
製 造 間 接 費 ()	原 価 差 異 ()	
()	()	

* 原価差異は一括して示すこと。

製 品		(単位: 円)
月 初 有 高 ()	売 上 原 価 ()	
完 成 品 ()	月 末 有 高 ()	
()	()	

答案用紙

問1 (単位：円)

材 料		賃 金	
仕 掛 品 ()		仕 掛 品 ()	
製 造 間 接 費 ()		製 造 間 接 費 ()	

製 造 間 接 費

諸 口 ()	仕 掛 品 ()
材 料 ()	
賃 金 ()	
()	()

仕 掛 品

月 初 仕 掛 品 ()	製 品 ()
材 料 ()	月 末 仕 掛 品 ()
賃 金 ()	原 価 差 異 ()
製 造 間 接 費 ()	
()	()

問2 (単位：円)

直接材料費差異 価 格 差 異 数 量 差 異	
直接労務費差異 賃 率 差 異 作 業 時 間 差 異	
製造間接費差異	

(不利差異の場合は、金額の前に△を付けること。)

問3

(単位：円)

借方科目	金 額	貸方科目	金 額

答案用紙

(単位：円)

問1 シングル・プラン

材料	
買掛金 ()	直接材料費一仕掛 ()
/	次月繰越 ()
	[] ()
	[] ()
()	()

直接材料費一仕掛	
材料 ()	製品 ()
/	次月繰越 ()
	()
	()

賃金	
諸口 ()	直接労務費一仕掛 ()
[] ()	[] ()
()	()

直接労務費一仕掛	
賃金 ()	製品 ()
/	次月繰越 ()
	()
	()

問2 パーシャル・プラン

材料	
買掛金 ()	直接材料費一仕掛 ()
/	次月繰越 ()
	()
	()

直接材料費一仕掛	
材料 ()	製品 ()
/	次月繰越 ()
	[] ()
	[] ()
()	()

賃金	
諸口 ()	直接労務費一仕掛 ()
()	()

直接労務費一仕掛	
賃金 ()	製品 ()
[] ()	次月繰越 ()
/	[] ()
	()
	()

問3 修正パーシャル・プラン

材料	
買掛金 ()	直接材料費一仕掛 ()
/	次月繰越 ()
	[] ()
	()
()	()

直接材料費一仕掛	
材料 ()	製品 ()
/	次月繰越 ()
	[] ()
	()
()	()

賃金	
諸口 ()	直接労務費一仕掛 ()
[] ()	/
()	
()	
()	()

直接労務費一仕掛	
賃金 ()	製品 ()
/	次月繰越 ()
	[] ()
	()
()	()

答案用紙

問1 (単位：円)

仕掛材料費	
仕掛間接費	

仕掛労務費	

問2 (単位：円)

仕掛材料費	
仕掛間接費	

仕掛労務費	

問3 (単位：円)

仕掛材料費	
仕掛間接費	

仕掛労務費	

練習問題 7-24

仕損・減損 1

Check! **2nd Stage!**

当社は、工程の始点において原料をすべて投入し、それを加工することによって、製品Zを製造している。次の〔資料〕に基づいて、正常仕損費を組み込んだ原価標準を2通りの方法で示しなさい。

〔資料〕

1. 加工品1個当たりの標準原価

直接材料費	@300円 × 4kg	=	1,200円
加工費	@700円 × 2時間	=	<u>1,400円</u>
合計			<u>2,600円</u>

(注) 加工費配賦率のうち、固定費部分は360円/時間である。また、月間の基準操業度は1,900直接作業時間である。

2. 仕損に関するデータ

正常仕損率	……	良品に対して15% (仕損の発生点は終点である)
評価額	……	なし

答案用紙

〈第1法〉原価要素別の標準消費量を、正常仕損率の分だけ増やす方法

直接材料費	(@) × ()	(kg) = () 円
加工費	(@) × ()	(h) = () 円
合計	製品Z1個当たり総標準製造原価	<u>() 円</u>

〈第2法〉正常仕損費を含まない原価標準の合計額に、正常仕損費を特別費として加える方法

直接材料費	(@) × ()	(kg) = () 円
加工費	(@) × ()	(h) = () 円
	製品Z1個当たり正味標準製造原価	() 円
正常仕損費	(@) × ()	(%) = () 円
	製品Z1個当たり総標準製造原価	<u>() 円</u>

答案用紙

問1

仕掛品		(単位:円)
前月繰越 ()	製品 ()	
材料 α ()	価格差異 ()	
材料 β ()	数量差異 ()	
加工費 ()	予算差異 ()	
	能率差異 ()	
	操業度差異 ()	
	次月繰越 ()	
()	()	

問2

仕掛品		(単位:円)
前月繰越 ()	製品 ()	
材料 α ()	異常仕損費 ()	
材料 β ()	価格差異 ()	
加工費 ()	数量差異 ()	
	予算差異 ()	
	能率差異 ()	
	操業度差異 ()	
	次月繰越 ()	
()	()	

答案用紙

問1 第1法による計算（単位：円）

仕 掛 品			
月初仕掛品原価 ()		完 成 品 原 価 ()	
当月実際製造費用		月末仕掛品原価 ()	
直接材料費 ()		総 差 異 ()	
加工費 ()			
	()		()
価格差異		予算差異	
()	()	()	()
数量差異		能率差異	
()	()	()	()
		操業度差異	
		()	()

問2 第2法による計算（単位：円）

仕 掛 品			
月初仕掛品原価 ()		完 成 品 原 価 ()	
当月実際製造費用		異 常 仕 損 費 ()	
直接材料費 ()		月末仕掛品原価 ()	
加工費 ()		総 差 異 ()	
	()		()
異常仕損費		予算差異	
()	()	()	()
価格差異		能率差異	
()	()	()	()
数量差異		操業度差異	
()	()	()	()

答案用紙

問1 第1法による仕掛品勘定

仕 掛 品		(単位：円)	
月初仕掛品原価 ()		完成品製造原価 ()	
当月実際製造費用		月末仕掛品原価 ()	
主 材 料 費 19,606,027		標準原価総差異 ()	
変 動 加 工 費 5,282,575			
固 定 加 工 費 8,493,211			
計 33,381,813			
合 計 ()		合 計 ()	

問2 第2法による仕掛品勘定 (注) 内に勘定名を記入しなさい。

仕 掛 品		(単位：円)	
月初仕掛品原価 ()		完成品製造原価 ()	
当月実際製造費用		<input type="text"/> ()	
主 材 料 費 19,606,027		月末仕掛品原価 ()	
変 動 加 工 費 5,282,575		標準原価総差異 ()	
固 定 加 工 費 8,493,211			
計 33,381,813			
合 計 ()		合 計 ()	

問3 第2法による標準原価総差異の分析

(注) () 内に、借方差異は－、貸方差異は＋記号を記入しなさい。

- ① 主材料価格差異 = () 円
- ② 主材料消費量差異 = () 円
- ③ 変動加工費予算差異 = () 円
- ④ 固定加工費予算差異 = () 円
- ⑤ 加工費能率差異 = () 円
- ⑥ 操業度差異 = () 円

答案用紙

問

(単位：円)

仕 掛 品	
月初仕掛品原価 ()	完 成 品 原 価 ()
当月実際製造費用	異 常 仕 損 費 ()
直接材料費 ()	仕 損 品 ()
加 工 費 ()	月末仕掛品原価 ()
<hr/>	総 差 異 ()
()	()
<hr/>	<hr/>
異常仕損費	予算差異
() ()	() ()
<hr/>	<hr/>
価格差異	能率差異
() ()	() ()
<hr/>	<hr/>
数量差異	操業度差異
() ()	() ()

答案用紙

問1 (単位：円)

仕掛品	
前月繰越 ()	製品 ()
材料 ()	異常仕損費 ()
加工費 ()	仕損品 ()
	総差異 ()
	次月繰越 ()
<u>()</u>	<u>()</u>

価格差異 (差異)	数量差異 (差異)
予算差異 (差異)	能率差異 (差異)
操業度差異 (差異)	

問2 (単位：円)

仕掛品	
前月繰越 ()	製品 ()
材料 ()	異常仕損費 ()
加工費 ()	仕損品 ()
	総差異 ()
	次月繰越 ()
<u>()</u>	<u>()</u>

価格差異 (差異)	数量差異 (差異)
予算差異 (差異)	能率差異 (差異)
操業度差異 (差異)	

問3 (単位：円)

仕掛品	
前月繰越 ()	製品 ()
材料 ()	異常仕損費 ()
加工費 ()	仕損品 ()
	総差異 ()
	次月繰越 ()
<u>()</u>	<u>()</u>

価格差異 (差異)	数量差異 (差異)
予算差異 (差異)	能率差異 (差異)
操業度差異 (差異)	

答案用紙

問1

仕 掛 品		(単位：千円)	
月初仕掛品原価 ()	完 成 品 原 価 ()		
当 月 製 造 費 用	月 末 仕 掛 品 原 価 ()		
直接材料費 (X) ()	総 差 異 ()		
直接材料費 (Y) ()			
直 接 労 務 費 ()			
製 造 間 接 費 ()			
小 計 ()			
()			()

差異分析表 (A) (単位：千円)

直接材料費 (X) 総差異 = ()	価 格 差 異 = ()	消 費 量 差 異 = ()
直接材料費 (Y) 総差異 = ()	価 格 差 異 = ()	消 費 量 差 異 = ()
直接労務費 総差異 = ()	賃 率 差 異 = ()	時 間 差 異 = ()
製造間接費 総差異 = ()	予 算 差 異 = ()	変 動 費 能 率 差 異 = ()
	固 定 費 能 率 差 異 = ()	操 業 度 差 異 = ()

(注) () には、不利差異であれば「U」、有利差異であれば「F」と記入しなさい (以下同様)。

問2

完成品原価	月末仕掛品原価	総差異
千円	千円	千円 ()

差異分析表 (B) (単位：千円)

直接材料費 (X) 総差異 = ()	価 格 差 異 = ()	消 費 量 差 異 = ()
直接材料費 (Y) 総差異 = ()	価 格 差 異 = ()	消 費 量 差 異 = ()
直接労務費 総差異 = ()	賃 率 差 異 = ()	時 間 差 異 = ()
製造間接費 総差異 = ()	予 算 差 異 = ()	変 動 費 能 率 差 異 = ()
	固 定 費 能 率 差 異 = ()	操 業 度 差 異 = ()

問3

異常仕損費	千円	総 差 異	千円 ()
-------	----	-------	--------

練習問題 7-32

その他の差異分析 1

Check! **2nd Stage!**

当社では、原料AとBを投入して製品を生産している。次の〔資料〕に基づき、各材料の数量差異を算定し、さらに通常の分析方法により、配合差異と歩留差異に分析しなさい。

〔資料〕

1. 標準配合表

次の比率で原料A及びBを工程の始点で投入し、原料10kg当たり9kgの製品が製造される。

$$\text{原料 A} \quad 6\text{kg} \quad \times \quad @100 \text{円} \quad = \quad 600 \text{円}$$

$$\text{原料 B} \quad \underline{4\text{kg}} \quad \times \quad @200 \text{円} \quad = \quad \underline{800 \text{円}}$$

$$\underline{10\text{kg}} \quad \quad \quad \quad \quad \quad \quad \quad \quad \quad \underline{1,400 \text{円}}$$

2. 当月原料費実績データ

$$\text{原料 A} \quad @100 \text{円} \quad \quad \quad 5,900\text{kg}$$

$$\text{原料 B} \quad @200 \text{円} \quad \quad \quad \underline{4,900\text{kg}}$$

$$\quad \quad \quad \quad \quad \quad \quad \quad \quad \quad \underline{10,800\text{kg}}$$

3. 当月完成品量 9,000kg

4. 月初及び月末において仕掛品は存在しない。

答案用紙

原料A	数量差異	円 ()	配合差異	円 ()
			歩留差異	円 ()
原料B	数量差異	円 ()	配合差異	円 ()
			歩留差異	円 ()

* () には有利・不利を記入すること。

練習問題 7-33

その他の差異分析 2

Check! **2nd Stage!**

当社では、原料AとBを投入して製品を生産している。次の〔資料〕に基づき、各材料の数量差異を算定し、さらに加重平均標準価格を用いる方法により、配合差異と歩留差異に分析しなさい。

〔資料〕

1. 標準配合表

次の比率で原料A及びBを工程の始点で投入し、原料10 kg当たり9 kgの製品が製造される。

原料 A	6 kg	×	@100 円	=	600 円
原料 B	4 kg	×	@200 円	=	800 円
	10 kg				1,400 円

2. 当月原料費実績データ

原料 A	@100 円		5,900 kg
原料 B	@200 円		4,900 kg
			10,800 kg

3. 当月完成品量 9,000 kg

4. 月初及び月末において仕掛品は存在しない。

答案用紙

原料A	数量差異	円 ()	配合差異	円 ()
			歩留差異	円 ()
原料B	数量差異	円 ()	配合差異	円 ()
			歩留差異	円 ()

* () には有利・不利を記入すること。

答案用紙

問1

	価格差異	歩留差異	配合差異	合 計
A	円	円	円	円
B	円	円	円	円
C	円	円	円	円
合 計	円	円	円	円

問2

	歩留差異	配合差異	合 計
A	円	円	円
B	円	円	円
C	円	円	円
合 計	円	円	円

問3

	歩留差異	配合差異	合 計
A	円	円	円
B	円	円	円
C	円	円	円
合 計	円	円	円

(注) 各問ともに、不利差異の場合は金額の前に△を付すこと。

練習問題 7-35

その他の差異分析 4

Check! **2nd Stage!**

当社では、原料AとBを投入して製品を生産している。次の〔資料〕に基づき、作業時間差異を算定し、さらに労働能率差異と労働歩留差異に分析しなさい。

〔資料〕

1. 標準配合表

次の比率で原料A及びBを工程の始点で投入し、AとB 10 kg当たり 9 kgの製品が製造される。

原料 A	6 kg	×	@100 円	=	600 円
原料 B	4 kg	×	@200 円	=	800 円
	10 kg				1,400 円

2. 原料A及びB 10 kgを加工して 9 kgの製品にするのに 2 時間かかる。なお、標準賃率は 600 円/時間である。
3. 当月原料費実績データ

原料 A	@100 円		5,900 kg
原料 B	@200 円		4,900 kg
			10,800 kg
4. 当月の実際直接作業時間は 2,100 時間、実際賃率は 600 円/時間であった。
5. 当月完成品量 9,000 kg
6. 月初及び月末において仕掛品は存在しない。

答案用紙

作業時間差異	円 ()	労働能率差異	円 ()
		労働歩留差異	円 ()

* () には有利・不利を記入すること。

練習問題 7-36

その他の差異分析 5

Check! **2nd Stage!**

当工場では、賃率の異なるAグループとBグループの工員が共同で製品を生産している。次の〔資料〕に基づき、作業時間差異を算定し、さらに人員構成差異と労働能率差異に分析しなさい。

〔資料〕

1. 標準データ

	賃率	作業時間
Aグループ	700 円/時間	2 時間/個
Bグループ	900 円/時間	3 時間/個

2. 実績データ

	賃率	作業時間
Aグループ	700 円/時間	2,500 時間
Bグループ	900 円/時間	2,800 時間

製品実際生産量は1,000個であり、仕掛品は存在しない。

答案用紙

A	作業時間差異	円 ()	人員構成差異	円 ()
			労働能率差異	円 ()
B	作業時間差異	円 ()	人員構成差異	円 ()
			労働能率差異	円 ()

* () には有利・不利を記入すること。

練習問題 7-37

その他の差異分析 6

Check! **2nd Stage!**

当社は標準総合原価計算を実施している。工程の始点で2種類の原料を投入することで製品αを製造している。そこで、次の〔資料〕に基づき、仕掛品勘定に数値の記入を行いなさい。

〔資料〕

1. 製品α 8 kgの製造に必要な製造原価

原料費	
原料甲	@140円 × 6kg = 840円
原料乙	@90円 × 4kg = 360円
直接労務費	@300円 × 6h = 1,800円
製造間接費	@440円 × 6h = 2,640円
合計	<u>5,640円</u>

(注) 製造間接費の月間基準操業度は480直接作業時間であり、製造間接費の標準配賦率のうち、@200円が変動費の配賦率である。

2. 生産データ

当月投入	
原料甲	440 kg
原料乙	<u>320</u>
合計	760 kg
減損	<u>176</u> (注) 減損は工程の終点で発生する。
完成品	<u>584 kg</u>

3. 当月原価データ

直接労務費実際発生額	138,880円
製造間接費実際発生額	208,400円

(注) 当月においては、原料の実際消費単価と標準消費単価は一致している。また、当月実際直接作業時間は448時間である。

4. 勘定記入は、パーシャルプランを採用している。また、製造間接費の能率差異は実際歩留ベースの標準直接作業時間と実際直接作業時間の差に標準配賦率を乗じて計算している。

答案用紙

仕掛品		(単位：円)
原料甲	製品	
原料乙	原料甲歩留差異	
賃金	原料乙歩留差異	
製造間接費	原料乙配合差異	
原料甲配合差異	賃率差異	
労働能率差異	労働歩留差異	
製造間接費能率差異	予算差異	
	製造間接費歩留差異	
	操業度差異	

答案用紙

問1

月初仕掛品原価	月末仕掛品原価	当月完成品原価
円	円	円

問2

(1) 直接材料費差異

	価格差異	配合差異	歩留差異
甲 原 料	円	円	円
乙 原 料	円	円	円

(2) 直接労務費差異

	賃率差異	人員構成差異	労働能率差異
A 級 工	円	円	円
B 級 工	円	円	円

(3) 製造間接費差異

予 算 差 異	能 率 差 異	操 業 度 差 異
円	円	円

練習問題 7-39

その他の差異分析 8

Check! **2nd Stage!**

当社の食品工場は、チョコレートを生産しており、標準原価計算を採用している。標準原価と実際原価に関する下記の〔資料〕に基づいて、材料費の配合差異、消費数量差異（歩留差異）及び労務費の作業時間差異の三つの差異を計算し、正しい組合せを示す番号を一つ選びなさい。なお、計算途中では端数処理を行わず、解答の最終段階で円未満を四捨五入すること。

〔資料〕

1. 実際投入原材料

カカオ	700 kg	実際単価	700 円/kg
アーモンド	780 kg	実際単価	500 円/kg
糖液	1,400 kg	実際単価	300 円/kg
合計	<u>2,880 kg</u>		
2. 標準投入原材料

カカオ	728 kg		
アーモンド	756 kg		
糖液	1,316 kg		
合計	<u>2,800 kg</u>		
3. 製品1カートンあたり標準原価（100個詰め）

直接材料費標準

カカオ	7.28 kg	単価	650 円/kg
アーモンド	7.56 kg	単価	500 円/kg
糖液	13.16 kg	単価	280 円/kg
合計	<u>28.00 kg</u>		

直接労務費標準

A職種	2時間	賃率	600 円/時間
B職種	1時間	賃率	750 円/時間
4. 生産実績

生産量：100カートン
5. 実際作業時間と実際賃率

A職種	205時間	580 円/時間
B職種	100時間	750 円/時間

	配合差異	消費数量差異	作業時間差異
1.	45,472 円(有利)	34,848 円(不利)	1,000 円(不利)
2.	17,528 円(有利)	34,848 円(不利)	3,250 円(不利)
3.	45,472 円(不利)	17,320 円(不利)	3,250 円(不利)
4.	34,848 円(不利)	17,528 円(有利)	1,000 円(不利)
5.	17,528 円(有利)	36,640 円(不利)	3,250 円(不利)

(2005年短答式本試験・問題26)

答案用紙

答案用紙

(単位：円)

問1

損益計算書 (一部)

売上原価

当期製品製造原価	()
期末製品棚卸高	()
標準売上原価	()
原価差異	()
売上原価	()

貸借対照表 (一部)

製品	()
材料	()
仕掛品	()

問2

損益計算書 (一部)

売上原価

当期製品製造原価	()
期末製品棚卸高	()
標準売上原価	()
原価差異	()
売上原価	()

貸借対照表 (一部)

製品	()
材料	()
仕掛品	()

問3

損益計算書 (一部)

売上原価

当期製品製造原価	()
期末製品棚卸高	()
標準売上原価	()
原価差異	()
売上原価	()

貸借対照表 (一部)

製品	()
材料	()
仕掛品	()

練習問題 7-41

原価差異の会計処理 2

Check! 2nd Stage!

当工場は製品Aを製造販売し、シングル・プランの標準総合原価計算制度を採用している。下記の直接材料費関係の〔資料〕に基づき、以下の各問に答えなさい。

〔資料〕

1. 製品A1個当たりの直接材料費標準
 材料甲 標準単価 40 円×標準消費量 10kg=400 円
 (注) 材料甲は工程の始点で投入される。
2. 年間取引データ要約
 - (1) 期首材料、期首仕掛品、期首製品はなかった。
 - (2) 材料甲は掛で購入したときに標準単価で受け入れている。
 - (3) 材料購入高と消費高

実際購入額(単価)	実際購入量	実際消費量	期末在庫量
840,000 円(56 円)	15,000kg	11,000kg	4,000kg
 - (4) 期中製品完成量 800 個、期中製品販売量 700 個
 - (5) 期末仕掛品量 200 個 (加工進捗度 50%)

問1 材料受入価格差異と材料数量差異を計算しなさい。なお、有利差異には+、不利差異には△の記号を付すこと。

問2 **問1** で計算した材料受入価格差異と材料数量差異は、異常な状態で発生したものではないが、予定価格等が不適当なため、比較的多額に発生した差異である。この場合、外部報告目的のために標準原価差異の会計処理を行わなければならない。

そこで、材料受入価格差異と材料数量差異の発生額を関係諸勘定へ追加配賦する計算を行い、その計算結果を、解答用紙に記載された各科目別に記入しなさい。

(注) 標準原価差異を追加配賦する方法は、ころがし計算法によること。

答案用紙

問1

材料受入価格差異	円
材料数量差異	円

問2

材料への追加配賦額	円
仕掛品への追加配賦額	円
製品への追加配賦額	円
売上原価への追加配賦額	円

答案用紙

問1

材料受入価格差異	材料消費量差異	直接労務費差異	製造間接費差異
円	円	円	円
()	()	()	()

問2

借方科目	金額(円)	貸方科目	金額(円)

問3

期末仕掛品原価	期末製品原価	売上原価
円	円	円

答案用紙

勘定記入は相手勘定科目名と金額を記入すること。期末有高については次期繰越とし、金額はまず標準原価を記入し、その下の行に追加配賦額を、さらにその下の行に両者の合計額（実際原価）を記入しなさい。

(単位：円)

材料

()	()	()	()
()	()	()	()
		()	()
			()
			()
	()		()
			()

仕掛品

()	()	()	()
()	()	()	()
()	()	()	()
			()
			()
	()		()
			()

製品

()	()	()	()
()	()	()	()
()	()	()	()
			()
			()
	()		()
			()

売上原価

()	()	()	()
()	()	()	()
()	()	()	()
			()
			()
	()		()
			()

材料数量差異

()	()	()	()
()	()	()	()
		()	()
			()
	()		()
			()

材料受入価格差異

()	()	()	()
		()	()
		()	()
		()	()
		()	()
	()		()
			()